

執筆者略歴

アーサー・クラインマン (Arthur Kleinman) 1941年生まれ。ハーバード大学教授 (the Esther and Sidney Rabb Professor), 精神科医。ハーバード大学アジア・センター長。2004-2007年には、ハーバード大学文化人類学部門の部門長を勤めた。中国をフィールドとした社会的苦しみ、精神疾患の研究で著名。 *Patients and Healers In the Context of Culture* (University of California Press, 1980) [大橋英寿ほか訳『臨床人類学——文化のなかの病者と治療者』弘文堂, 1992], *The Illness Narratives: Suffering, Healing, and the Human Condition* (Basic Books, 1988) [江口重幸ほか訳『病いの語り——慢性の病いをめぐる医療人類学』誠心書房, 1996] など、医療人類学のランドマークとなる研究書を著している。最近作は道徳と倫理の問題を扱った *What Really Matters* (Oxford University Press, 2006)。アメリカ医療人類学会からは、2006年のLifetime Achievement Award, 2008年のGeorge Foster Awardなど、受賞多数。 *Rethinking Psychiatry: From Cultural Category to Personal Experience* (Free Press, 1970) は邦訳がみすず書房より刊行予定。

ジョーン・クラインマン (Joan Kleinman) 1939年生まれ。収録論文の執筆時、ハーバード大学文化人類学部門のリサーチ・アソシエイト。アーサー・クラインマンの配偶者・共同研究者として中国をフィールドとする医療人類学研究に従事し、 *Daedalus, Social Science and Medicine, New Literary History, Chinese Psychiatry, Chinese Journal of Mental Health, British Journal of Psychiatry* 等に論文を寄稿。

ヴェーナ・ダス (Veena Das) 1945年生まれ。ジョンズ・ホプキンズ大学、文化人類学教授。暴力および社会的苦しみにかんする編著、 *Mirrors of Violence: Communities, Riots and Survivors in South Asia* (Oxford University Press, 1990) のほか、アーサー・クラインマンとの共編で *Violence and Subjectivity* (University of California Press, 2000), *Remaking a World* (University of California Press, 2001) を送りだしている。最近の著作に *Life and Words: Violence and the Descent into the Ordinary* (California University Press, 2006) がある。

ポール・ファーマー (Paul Farmer) 1959年生まれ。ハーバード大学医学校、国際公衆衛生・社会医療部門長、医療人類学教授。医師としてボストンのブリガム・アンド・ウイメンズ病院に勤務。ジム・ヨン・キム (Jim Yong Kim) とともにハイチで活動するNPO医療組織「パートナーズ・イン・ヘルス」(PHI)を立ち上げたが、その活動は貧困地域における診療活動の雛型として知られる。ハイチのほか、ロシア、ルワンダ、レソト、マラウイ、ペルーにおいても医療活動をおこなっている。著書に、*Infections and Inequalities: The Modern Plagues* (University of California Press, 1999), *Partner to the Poor: A Paul Farmer Reader* (University of California Press, 2010) ほか。 *Pathologies of Power: Health, Human Rights* (University of California Press, 2003) の邦訳がみずず書房より刊行予定。

マーガレット・ロック (Margaret Lock) マッギル大学医療社会学部・文化人類学教授。カナダ・ロイヤル・ソサエティ会員。日本と北米をおもなフィールドとし、医療人類学的研究を精力的に続けている。その功績により2005年、カナダ最高の学術賞であるキラム賞を受賞。そのほか、ステイリー賞など受賞多数。その他の単著に、*East Asian Medicine in Urban Japan: Varieties of Medical Experience* (University of California Press, 1980) [中川米造訳『都市計画と東洋医学』思文閣出版, 1990], *Twice Dead: Organ Transplants and the Reinvention of Death* (University of California Press, 2001) [坂川雅子訳『脳死と臓器移植の医療人類学』みずず書房, 2004] があるほか、アラン・ヤングらとの共編である *Living and Working with the New Medical Technologies: Intersections of Inquiry* (Cambridge University Press, 2000) をはじめ多数の編著書がある。カナダ在住。

E・ヴァレンタイン・ダニエル (E. Valentine Daniel) コロンビア大学文化人類学部門教授。自身スリランカ生まれのタミル人であり、南インドおよびスリランカをフィールドとして、社会的暴力と難民問題、プランテーションにおける労働問題に関連する苦しみの研究に従事。同時に、非西洋的、民族学的な批評の手法と西洋哲学の手法を組み合わせた批評のあり方を探っている。著書に、*Fluid Signs: Being a Person the Tamil Way* (University of California Press, 1984), *Culture/Contexture: Essays in Anthropology and Literary Study* (Co-edited with Geoffrey Peck, University of California Press, 1996), *Mistrusting Refugees* (Co-edited with John Knudsen, University of California Press, 1996), *Charred Lullabies: Chapters in an Anthropography of Violence* (Princeton University Press, 1997) など。

タラル・アサド (Talal Asad) 1933年サウジアラビア・メディナ生まれ。

ニューヨーク市立大学人類学教授。オックスフォード大学でPh.D.取得（人類学）。人類学の視点から西洋近代化という覇権的時空を批判的にとらえ、その内部で西洋近代に完全には同化されることのないさまざまな近代の様相を描き出している。著作に、*Genealogies of Religion: Discipline and Reasons of Power in Christianity and Islam*〔抄訳は中村圭志訳『宗教の系譜——キリスト教とイスラムにおける権力の根拠と訓練』岩波書店、1993〕、*Formations of the Secular: Christianity, Islam, Modernity*〔中村圭志訳『世俗の形成——キリスト教、イスラム、近代』みすず書房、2006〕、"The Concept of Cultural Translation in British Social Anthropology"〔「イギリス社会人類学における文化の翻訳という概念」、クリフォード／マーカス編・春日直樹ほか訳『文化を書く』所収、紀伊國屋書店、1986〕など。